

宮崎県における高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜の確認
(家きん国内 45 例目) について

令和 3 年 2 月 7 日 (日)

令和 3 年 2 月 7 日、宮崎県児湯郡新富町こゆ しんとみちょうの養鶏場において、家きん国内45例目となる高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜が確認された旨の報告がありました。この報告を受け、発生農場の周辺半径10km圏内を野鳥監視重点区域に指定し、野鳥の監視を強化します。

1. 経緯

- 2月6日(土) ・宮崎県が、死亡鶏が増加した旨の通報を受け、当該農場への立入検査を実施
・当該鶏についてインフルエンザ簡易検査を実施し陽性
- 2月7日(日) ・当該鶏について遺伝子検査を実施した結果、H5亜型であり、高病原性鳥インフルエンザの疑似患畜であることを確認

2. 対応

- (1) 2月7日に発生農場の周辺半径 10km 圏内を野鳥監視重点区域に指定し、野鳥の監視を強化します。
- (2) 今回指定した野鳥監視重点区域は、同町での家きん国内 40 例目の発生を受けて指定した野鳥監視重点区域と大部分が重複しており、同区域では、宮崎県が野鳥でのウイルスの感染範囲の状況把握、感染源の推定や更なる感染拡大を防止するための基礎情報を得ることを目的とした野鳥緊急調査を2月4日に実施するとともに、その後も野鳥の監視を継続していますが、野鳥の大量死等の異常は確認されていません。このため、引き続き、野鳥の監視強化により対応します。
- (3) 「野鳥における高病原性鳥インフルエンザに係る対応技術マニュアル」 (<http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/manual/pref_0809.html>に掲載) に準じて、野鳥の監視強化を始めとした対応を行います。
- (4) 野鳥サーベイランスにおける全国の対応レベルは、令和 2 年11月 5 日付けで最高レベルとなる「対応レベル 3」に引き上げており、全国での野鳥の監視強化を継続します。

3. 留意事項

- (1) 鳥インフルエンザウイルスは、感染した鳥との濃密な接触等の特殊な場合を除いて、通常では人には感染しないと考えられています。日常生活においては、鳥の排泄物等に触れた後には手洗いとうがいをいただければ、過度に心配する必要はありませんので、冷静な行動をお願いします。
- (2) 周辺地域のみならず国民の皆様におかれては、「野鳥との接し方について」に十分留意されるようお願いします。

https://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/2017yachotonosessikata.pdf

【取材について】

現場での取材は、ウイルスの拡散や感染を防ぐ観点から、厳に慎むようお願いします。

【参考情報】

環境省はホームページで高病原性鳥インフルエンザに関する様々な情報を提供しています。
(http://www.env.go.jp/nature/dobutsu/bird_flu/index.html)

環境省自然環境局野生生物課			
鳥獣保護管理室			
直通	03-5521-8285		
代表	03-3581-3351		
室長	川越 久史	(内線 6470)	
企画官	立田 理一郎	(内線 6465)	
係長	中山 裕貴	(内線 6474)	
担当	宮澤 結有	(内線 6477)	